



# 日本植物分類学会 ニュースレター

No. 70

Aug. 2018

## 今号のトピックス

2018 年度日本植物分類学会講演会のお知らせがあります→ 2 ページ  
東アジア国際植物分類学シンポジウムのご案内があります→ 3 ページ

## 目 次

|   |   |
|---|---|
| 会長および評議員選挙の結果   | 2 |
| 評議員追加選出の結果について  | 2 |
| お知らせ  |   |
| 2018 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ   | 2 |
| 東アジア国際植物分類学シンポジウム   |   |
| "East Asian Plant Diversity and Conservation 2018" のご案内           | 3 |
| 2018 科博国際シンポジウム   |   |
| "Plant Biodiversity Conservation in East and Southeast Asia" のご案内 | 5 |
| 第 18 回 (2019 年度) 日本植物分類学会賞  |   |
| (学会賞および奨励賞) の受賞候補者の募集   | 6 |
| 寄稿  |   |
| 学名のラテン語 (20)  | 6 |
| 会員消息  | 7 |

## 会長および評議員選挙の結果

---

選挙管理委員長 岡崎 純子

日本植物分類学会ニュースレター No. 69 で公示された日本植物分類学会会長および評議員選挙の開票結果についてお知らせします。

開票は2018年7月18日(水)に大阪教育大学(柏原市)において、本学会会員の西野貴子氏、高山浩司氏の立ち会いのもとで行われました。開票の結果、以下の方々が次期会長および評議員に決まりました。

### 【会長】

|    |       |      |
|----|-------|------|
| 当選 | 伊藤 元己 | 72 票 |
| 次点 | 村上 哲明 | 37 票 |

(有効投票数 152 票)

### 【評議員】

|    |        |      |
|----|--------|------|
| 当選 | 藤井 伸二  | 35 票 |
|    | 志賀 隆   | 34 票 |
|    | 西田 佐知子 | 34 票 |
|    | 村上 哲明  | 30 票 |
|    | 副島 顕子  | 28 票 |
|    | 永益 英敏  | 25 票 |
|    | 池田 博   | 24 票 |
|    | 山田 敏弘  | 21 票 |
| 次点 | 高野 温子  | 20 票 |

(有効投票数 137 票)

## 評議員追加選出の結果について

---

評議員 藤井 伸二

選挙管理委員長からの報告の通り、次期評議員として8名が選出されました。「役員等の選出についての細則」第4条の規定に基づき、8名の合議によって下記の4名を評議員として追加選出しました。

秋山 弘之、土金 勇樹、内貴 章世、綿野 泰行(五十音順)

## お知らせ

---

### 2018年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 布施 静香

2018年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦先生に会場をお世話いただき、次のおとおり開催いたします。演題など詳細につきましては次号のニュースレターでご案内いたします。

【日時】 2018年12月15日（土）午前10時～午後4時40分

【講演会場】 大阪学院大学 2号館地下1階2号教室（02-B1-02教室）  
〒564-8511 大阪府吹田市岸辺南2丁目36番1号（電話：06-6381-8434）

【講演者とスケジュール】

10:00-10:05 ご挨拶 伊藤 元己（会長）  
10:05-10:55 伊東 拓朗（京都大学）  
11:00-11:50 羽生田 岳昭（神戸大学）  
（11:50-13:10 昼食）  
13:10-14:00 高山 浩司（京都大学）  
14:05-14:35 道盛 正樹（しだとこげ談話会）  
（14:35-14:50 休憩）  
14:50-15:40 山田 敏弘（大阪市立大学）  
15:45-16:35 塚腰 実（大阪市立自然史博物館）  
16:35-16:40 ご挨拶 林一彦

東アジア国際植物分類学シンポジウム

"East Asian Plant Diversity and Conservation 2018"のご案内

国際シンポジウム準備委員長 池田 博

日中韓を中心とする国際植物分類学シンポジウムを、10月末から11月初めにかけて中国・浙江省杭州市（Hangzhou）で開催いたします。会場はユネスコの世界文化遺産にも登録されている西湖にほど近い杭州梅竺飯店（Hangzhou Meizhu Hotel）とし、エクスカーションは多様な植物を観察できる2つのコースから選べるようにしました。このシンポジウムを通して、中国・台湾・韓国の研究者らと親しく交わり、現在および将来の研究について胸襟を開いてディスカッションできる場になればと考えています。

「参加・発表申込書（Registration Form）」には、前回同様、ご自身の研究に関するアンケートがついています。前回のシンポジウムの際には、このアンケートをきっかけとして新たな研究を展開された方もいらっしゃるようです。今後の活発な国際協力体制を構築するためにも、アンケートにご協力のほどよろしくご願いたします。

前回まではシンポジウムのテーマを決め、主催者側から講演をお願いしていましたが、今回は口頭発表も皆様からの公募としました。このシンポジウムは、国際会議にも位置づけられるものです。特に若手の会員の方にとっては研究業績を加える良い機会にもなりますので、積極的なご参加をお待ちしています。

【会場】 杭州梅竺飯店（Hangzhou Meizhu Hotel）  
杭州市西湖区梅家坞3号（Tel: +86-571-86778688）

【日程】 2018年10月30日（火）～11月4日（日）  
10月30日（火）受付  
10月31日（水）・11月1日（木）口頭発表・ポスター発表  
11月2日（金）～4日（日）エクスカーション

エクスカーションについて：2つのコース（西コース & 東コース）を準備しました。

・西コース：杭州－千島湖（Qiandaohu）（淳安（Chun'an）県）－銭江源（Qianjiangyuan）（開化（Kaihua）県）－杭州

※典型的な亜熱帯常緑広葉樹林とそれに伴う野生植物の観察ができます。

- ・東コース：杭州 – 靈江源 (Lingjiangyuan) 森林公園 (磐安 (Pan'an) 県) – 華頂 (Huading) 森林公園 (天台 (Tiantai) 県) – 国清寺 (Guoqing Temple) – 杭州
- ※森林公園内の野生植物および薬用植物の観察ができます。

宿泊について：シンポジウム会場近くの杭州梅竺飯店、およびエクスカーション中のホテルはおよそ 400 中国元/部屋/泊 (日本円で約 6500 円) です。部屋の多くはベッドが2つありますので、2人でシェアすれば、半額 (200 元/泊) となります。登録申込みの際にシェアを希望するかどうか、お知らせください。

空港からホテルへのアクセスについて：10月30日(火)には、杭州の空港 (杭州蕭山國際空港 Hangzhou Xiaoshan International Airport) からホテルまで貸し切りバスを出す予定です。13:00 および 17:00 に空港を出ますので、時間を合わせてお乗りください。

### 【参加申込】

大会に関する詳しい情報 (英語版) は、プログラム&情報 (Information-20180806.doc) および登録フォーム (Registration-20180806.doc) として日本植物分類学会 HP (<http://www.e-jsps.com/wiki/wiki.cgi>) に掲載していますので、参考にしてください。

参加申込は、原則として電子メールでお申し込み願います。メールの件名 (タイトル) は、「Registration\_ (英語で) 申込者氏名」として下さい (例: "Registration\_Hiroshi\_Ikeda")。学会 HP から、登録フォームをダウンロードしていただき、必要事項を記入し、大会本部アドレス (eap2018(a)163.com ※ (a) を @ (アットマーク) に変更) 宛てに、添付ファイルとしてお送り下さい。添付ファイル名も同様に、「Registration\_ (英語で) 申込者氏名 .doc」として下さい。

送信してから7日 (土日・祝日を除く) 経っても大会準備委員会から受信の返事がない場合は、メールの件名を「Resend\_Registration\_ (英語で) 申込者氏名」に変更した上で同じメールを送信して下さい。

発表される方・されない方ともに、9月30日(日)が締め切りですので、遅れないようお願いいたします。また、発表される方は要旨の締め切りも同日となりますので、お間違えないよう宜しくお願いいたします。

### 【申込締切】

9月30日(日) (大会参加・懇親会・エクスカーション申込・発表要旨ファイル提出いずれも)

### 【大会参加費・懇親会費・エクスカーション費】

日本から参加される方は、大会参加費・懇親会費・エクスカーション費 (宿泊費を除く) は免除されます。すなわち、日本からの往復航空券代および現地での宿泊費のみの支払いで参加できます。

航空券は各自手配をお願いします。宿泊費については、現地でお支払い願います。

### 【発表の要領】

本大会の公用語は英語とします。発表には英語を用いていただきますようお願いいたします。

#### ●口頭発表

口頭発表は、発表 30 分・質疑応答 5 分とします。発表される方は、Microsoft PowerPoint によりスライドの準備をお願いいたします。

#### ●ポスター発表

ポスターの大きさは、縦 120 cm, 横 80 cm 以内です。ポスターの貼り付けは 10 月 31 日の朝、撤収は 11 月 1 日のポスターセッション終了後をお願いいたします。

### 【発表要旨作成要領】

発表要旨の原稿は MS (マイクロソフト) ワード (Windows 版, Mac 版) を用いて作成してください。

要旨本文は 600 語以内で記述してください。

記入例 (Abstract-example2018.docx) を学会 HP にアップしますので、それを用いてください。細かい体裁については、記入例を参考にしてください。

なお、図・表を入れることも可能ですが、図・表を含めて収まるようにして下さい。白黒印刷しますので、グレースケール原稿は印刷の際につぶれるおそれがあります。できる限りグレースケールは使わないようにしてください。

申込先：国際植物分類学シンポジウム 2018 大会本部

2018 East Asian Plant Diversity and Conservation Secretariat: Xiao-Feng JIN & Qian-Qian WU

E-mail: eap2018(a)163.com

※ (a) を @ (アットマーク) に変更してお送りください。

分からないこと・ご質問等ありましたら、大会本部またはシンポジウム準備委員長までご連絡ください。

国際シンポジウム準備委員長：池田 博

〒 113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学総合研究博物館

Tel/Fax: 03-5841-2839

E-mail: h\_ikeda(a)um.u-tokyo.ac.jp

※ (a) を @ (アットマーク) に変更してお送りください。

## 2018 科博国際シンポジウム

### "Plant Biodiversity Conservation in East and Southeast Asia" のご案内

2018 科博国際シンポジウム実行委員長 樋口 正信

東・東南アジアの植物多様性保全に関する国際シンポジウムを 2018 年 11 月 9 日 (金) ~ 11 日 (日) に開催いたします。

【会場】国立科学博物館 (東京都台東区上野公園 7-20)

【日程】11 月 9 日 (金) ~ 11 日 (日)

11 月 9 日 (金)・10 日 (土)

学術シンポジウム "Plant Biodiversity Conservation in East and Southeast Asia" (英語, 同時通訳有)。

東アジアおよび東南アジア各国の講演者 13 名を予定。

11 月 11 日 (日) 午後

公開シンポジウム「日本の植物多様性を考えよう」(日本語)。日本人講演者 7 名を予定。

詳しい日程、参加申込 (申込受付は 9 月開始予定) につきましては、後日、国立科学博物館 HP にて公開いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

【問い合わせ先】

〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

國府方 吾郎・堤 千絵

Email : international\_symposia2018b@kahaku.go.jp

## 第 18 回 (2019 年度) 日本植物分類学会賞 (学会賞および奨励賞) の受賞候補者の募集

日本植物分類学会会長 伊藤 元己  
学会賞選考委員会委員長 永益 英敏

日本植物分類学会賞 (学会賞および奨励賞) の受賞候補者を募集します。学会賞・奨励賞ともに、会員の皆様からの積極的な自薦による応募を期待します。他薦についても、ふるってご推薦ください。これまでの受賞者名等については学会ホームページでご覧になれます。候補者は学会賞選考規定第 2 条に基づき、以下に該当する方です。

「日本植物分類学会賞」：植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められた方に授与いたします。受賞者の資格は 10 年以上継続して本会会員である方です。

「日本植物分類学会奨励賞」：平成 31 年 4 月 1 日において満 38 歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な若手研究者 (学生を含む) に授与いたします。受賞者の資格は 3 年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している方です。

応募要領：自薦の場合は、(1) どちらの賞への応募か、(2) ご自分の研究全体を示すタイトル、(3) 略歴 (生年月日、学歴、職歴など)、(4) 調査・業績の概要、そして (5) 業績リスト (論文、著書など) と本学会の大会での発表記録を、MSWord や一太郎等の電子ファイル、あるいは A4 用紙に記入してお送りください。書式は自由です。他薦の場合は、(1) 候補者の氏名、(2) どちらの賞への応募か、(3) 研究全体を示すタイトル、(4) 略歴、(5) 推薦理由をお知らせください。

自薦、他薦を問わず、さらに必要な資料があれば学会賞選考委員会から候補者の方に提出を依頼します。応募は e-mail でのファイル添付または郵便でお願いします。

書類送付先：〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館 永益英敏  
e-mail: nagamasu.hidetoshi.2w アットマーク kyoto-u.ac.jp (カタカナを @ に変えてください)

応募締切日：平成 30 年 9 月 25 日 (火)

両賞の受賞者は、平成 31 年 3 月の日本植物分類学会第 18 回大会 (東京) において表彰されます。また、同大会において受賞講演を行っていただき、和文誌『植物地理・分類研究』に受賞記念論文を発表していただくことを原則としております。

## 寄稿

### 学名のラテン語 (20)

永益 英敏 (京都大学総合博物館)

#### 種と種内分類群の学名の形容語-属格の名詞 (5)：宿主や関係する生物を示す属格

学名の形容語として属格の名詞が用いられる例に、宿主や関係する他の生物を示す場合がある。菌類では多くみられ、たとえば日本人の食生活には不可欠の麹菌ニホンコウジカビ *Aspergillus oryzae* の種形容語は *Oryza* (イネ属) の属格である。菌類のほかにも、水生シダ植物アカウキクサ *Azolla* の葉の内部の空洞に共生する藍藻の一種の学名は *Anabaena azollae* で、*Azolla* の属格を種形容語としている。昆虫ではその虫が食べる植物の名を属格として種小名とすることがしばしば行われる。たとえばモンシロ



チョウの学名 *Pieris rapae* (この属名は植物のアセビ属 *Pieris* と同名である) の種小名は、アブラナ類 *Brassica rapa* の学名に使われている名詞 *rapa* の属格である。カイコの学名は *Bombyx mori* で、食草であるクワ属 *Morus* の属格を使っている。今では使われていない学名だが、逆にカイコ *Bombyx* の属格を種形容語としてヤマブドウを *Morus bombycis* (= *M. australis*) とした例もある。

もち病をひきおこす担子菌 *Exobasidium* を例にとると、様々な属名の属格が種形容語として採用されていることがわかる。

- E. camelliae* (*Camellia* [第一変化名詞] ツバキ属)
- E. euryae* (*Eurya* [第一変化名詞] ヒサカキ属)
- E. cinnamomi* (*Cinnamomum* [第二変化名詞] クスノキ属)
- E. symploci* (*Symplocos* [第二変化名詞] ハイノキ属)
- E. vaccinii* (*Vaccinium* [第二変化名詞] スノキ属)
- E. celtidis* (= *Muribasidiospora celtidis*; *Celtis* [第三変化名詞] エノキ属)
- E. pieridis* (*Pieris* [第三変化名詞] アセビ属)

種の学名全体を属格とし、ハイフンをつないだ種形容語とすることもできる。この場合、形容語として使われている生物の種名の形容語が形容詞であれば、語尾は宿主の属名の性・格に合致させて変化し、属名 (*Exobasidium*) の性 [中性] とは独立していることに注意してほしい。その形容語が名詞であるときは、形容詞のような変化はしないので、その名詞の属格をとる。

- E. camelliae-oleiferae* (*Camellia oleifera* 油茶 : 女性)
- E. symploci-japonicae* (*Symplocos japonica* クロキ : 女性)
- E. rhododendri-nivalis* (*Rhododendron nivale* 雪層杜鵑 : 中性)
- E. vaccinii-uliginosi* (*Vaccinium uliginosum* クロマメノキ : 中性)

また、形容語には属名の複数属格が用いられることもある。

- Rusula picearum* (*Picea* [第一変化名詞] トウヒ属)
- Aulographia pinorum* (*Pinus* [第二変化名詞] マツ属)
- Amanita abietum* (*Abies* [第三変化名詞] モミ属)

菌類の学名については、宿主など関係する生物の属名に由来する場合、命名規約には特別な規定がある。メルボルン規約 (McNeill et al. 2012) では 60.13 条に置かれていたが、深圳規約 (Turland & Wiersema 2018) では新しく設置された Chapter F 「菌類として扱われる生物の学名」の F.9 条に置かれている。

F.9.1. 関係する生物の属名に由来する菌類の学名の形容語は、その生物の学名の受け入れられている綴りに一致して綴られなければならない。他の綴りは訂正されるべき正字法上の異形体とみなされる (第 61 条をみよ)。

実例 1. *Phyllachora "anonicola"* Chardón (in Mycologia 32: 190. 1940) は *P. anonicola* Chardón に変更されなければならない。なぜなら "*Anona*" L. は *Annona* に訂正されるべき綴りだからである。- *Meliola "albizziae"* Hansf. & Deighton (in Mycol. Pap. 23: 26. 1948) は *M. albizziae* に変更されなければならない。なぜなら "*Albizzia*" Durazz. は *Albizia* に訂正されるべき綴りであるからである。

McNeill, J. et al. (eds.) 2012. International Code of Nomenclature for algae, fungi, and plants (Melbourne Code). Koeltz Scientific Books, Königstein.

Turland, N. & J. H. Wiersema (eds.) 2018. International Code of Nomenclature for algae, fungi, and plants (Shenzhen Code). Koeltz Scientific Books, Königstein.

